十一

くはしくは詞にて 古今和歌集の詞に 堀河院の御時
事なくて かの前斎宮の 女御になりて 待賢門院
は 綸旨にて源氏廿歳の時の事也 二月の比 廿九歳の事也
[illegible]
前太政大臣 梅壺中宮の冷泉院の当りし事 しかれども
源氏 廿一歳の [illegible] 紫上廿九歳の [illegible]
綸旨は源氏廿一歳の春の事也 正二月より 内わたりの
[illegible] の [illegible]
とて [illegible] 侍りて [illegible]
[illegible] 朱雀院 [illegible] 親王
[illegible]

慶應義塾圖書館藏

一　ゝ之部

○御注　中宮のゆんしきよくし當麻　一部かゝりて法華経をかゝり

宗のあなかくれ大念仏　寺

こゝのよくあつし源氏の紀　寺

玄武院とも申しことしめさん一二条院より入内のせいや忠

より朱雀院とさかり延寺　源氏は内侍　紫は后とよ

も一何のそしらそもくるしからぬ方か紀

菊もおほえし源氏物語のやうに紀

院はいくらおほしくし　寺宮と朱雀院しおかしくおほしめさるゝ

かくあそこし梢箱にうるみさしはそしはれくしの紀見へ

大二の　御ぶくのすゝへ中しく源氏は宰相の所行く

うつき行なし云

ぼうぶの紀　香壺は香粉　圓く角ある宮　梅花は薫物

衆方ノ　桃花の箱　水原云　沈香を斂金角の高廿

三寸五分　廣サ九寸七分　長廿同上

九云　まくらきいは文ニアラス　紀又ニテモ

くさくのゆうれ物し　ちゝれくあり

百ぶのおまてし　百歩の方よそあり遠く匂ふ物の名

一歩は六尺を云

こゝの人さゝせし　朱雀院より帝の気をみそ

又は源氏の

注とくあ

[illegible]

の休道あるべき段銭（たんせん）[illegible]

あまたくしのたましなりうるべく[illegible]の字有感[illegible]

御ゆをし文字はれるとあさくもて[illegible]

源のなかり思ける

あしらしのそこのみつましかくあけの内さすまめる

くしの営金銀の蒔絵の営方四寸松の枝松鶴ならべ

天暦三年藤花宴御膳折敷心葉藤花に近代

前物折敷の四角[illegible]松枝[illegible]

[illegible]

[illegible]

しや事松[illegible]花一勤[illegible]

[illegible]

[illegible]事[illegible]

[illegible]

わきて[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

さうらう

おりおりく　おんをつきて深くおもハれ　[illegible]

はらくも源氏の事ハはらく朱雀院をおもひさせけり

猶[illegible]をさへ思ふらむ　又

こゝろ打ちあけ思案のくまし　内の事をは後悔しおもひ出て來る

はんめかりをおもひしそ

さはあらむといふへし　文をとかくして源氏ハ桐壺院

め[illegible]はらんおりさきのらし

女三宮やましく結ぼふくまし

こゝろゆるしたま迎へし今は我はひかくしおもはまほし

事[illegible]れハ[illegible]さ[illegible]深[illegible]

事あたてた[illegible]源[illegible]ハ[illegible]遊[illegible]

てかくし青海[illegible]

いかにしおもハし大后[illegible]の事は源氏[illegible]事ならや

朱雀院ハ故文をも

殺父[illegible]の事を[illegible]やりて[illegible]恩[illegible]

[illegible]の事[illegible]門の[illegible]

かへりて[illegible]源氏の心上の内[illegible]

[illegible]あれ[illegible]あれ[illegible]

物かおり[illegible]花[illegible]今

[illegible]

やはり[illegible]何[illegible]

まきこしかそへ　ともに一所

一、いはれたり　後撰のはん

しけれはしり新古今の時定家に

くらゐといひけれとしもしさいふ紙つくしたる巻の始のことくなれ

あれは三年めくりへ中門ハ十三才紀好文二十才に後撰へ

武内と定まる用の門の筆を記ハ後撰九九才に也治衛門

從せかくの筆あさく治用ろや時

いくさ筆ときぬ新古今のふところて浄泉院へ申入られ侍

おのれしかるへく　新好文と中門の肆年の頃とかれ

ともゝまくさしてしも被

そなたよしなけ後撰にて維理ノ大臣しけるに人々共は

けしさるそてね

すゝめ給え延

ことに安房一々六字也と

いかれしおり世陣し中息所の事に

とくらお前　てあそかに

さしれ亮ある女一女房人へいえ見えしやさしさ筆ハあつらへれ

四条宮の女房人なり

かくし野中息所の法筆し　ちわりハ風流ならん

中文も用ましき御字ね用しおほすに乗丸中所へ御待まて

なとらハとそし内のそてあしやうなるに

定まかくしうす房の定門へ戸後縄

人ゝおもしをましかし中門乃内へとさ所しさしきはゆれ

とてしやのんとおり也　ちなのつ隠しやりし　新古今

さて治しあ今りいさいへけんし新古今後撰に撰集とあり

へいしう内も十二ヶ月　あかにふ新古今のかうゝゆ　六四也

一 六条ハ大臣の女也 前坊に さふらひて 姫宮を[illegible]
さきの斎宮 入内ありし事 [illegible] 斎宮ハ
[illegible]の宮に 二月をとゝのへ[illegible]
おなしく入らせ給ふ 斎宮ハ梅壺[illegible]
権中納言 昔の頭中将也 女を[illegible] 弘徽殿
一 [illegible]の[illegible]く思ひ[illegible]
おもく[illegible] 源氏の院へさふらひ[illegible]
さふらふ 院ハ[illegible]の中宮に[illegible]
みすのはるかに[illegible]
おもひ[illegible] 御心[illegible]
こよひ[illegible]

源氏ハいまめかしく[illegible]
絵ハいとおもしろくかゝせ給ふ[illegible]
[illegible]の[illegible]
いとけなき御さまにて 梅壺の[illegible]
[illegible] まゐりて[illegible]
わか[illegible] 御絵のさまをしらせ給ふ[illegible]
[illegible]
かくて絵合の事あるへし 梅壺 弘徽殿
左右 [illegible] 女の[illegible]の事 [illegible]
まつ物語の出きはしめの親なる竹取の翁に
宇津保の俊蔭をあはせて[illegible]

[illegible]

いまめかしからで[illegible] 侍るにや [illegible]

おもしろき[illegible]伴雅[illegible]文[illegible]

[illegible]の一十二月の節会をこそ[illegible]

一勘子年中行事[illegible]給ひしを[illegible]

おなじくいにしへのちそんの女御の中にや

[illegible]

[illegible]かくれ也 秘蔵

このかた[illegible]枕草子[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いとあつしく[illegible]

[illegible]

長恨歌[illegible]玄宗[illegible]楊貴妃馬嵬にしてうしなはれ

玉[illegible]美[illegible]事の[illegible]

[illegible]節[illegible]

[illegible]の[illegible]

[illegible]行事[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

かの留し前をおしへけるぞ今はたゞ色好ける業とのみ思ふ
ならはしなかりし事を思しいでゝ
女御の御方に源氏のおほせ言とぞへとぞ 花
源氏の君は女君も右の宮もきこえて今は
かくれなき御心ばへ見ゆ 寄
須磨の秘は絵をゑんじても源氏の君あはれ
しのびたる事へ入りてこそあるべき
いかなるわざにて 源氏の詞
うきめを見し前の絵のさまにて
弘徽殿思し絵の御さまなど
須磨の絵の御事

らうたげなる御さまを
とかく御方へ入りて
さすがに思しめしける宮の御前に
いかなる御事をか
なにかしの御事
かくて二月廿日あまりに
[illegible]
花やかなる
宮の御前の日の
いとようさぶらふ
[illegible]

むかし松つかの御方[illegible]
松つかの女[illegible]花[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
色[illegible]めの三月吉日
平内侍のすけ 天徳元年更衣典侍掌侍命婦を
方[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]三月[illegible]
[illegible]
[illegible]
世[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

まつ物かたりの出来はしめの親なる竹取の翁に……

物つかの女……絵……

……絵……

……節……絵合……

めの絵合……物かたりの……

……女院の……

色なんとうめの三月吉日也

平内侍のとけし天徳元年更衣典侍掌侍命婦なと

方人なりまた絵合とて劔をとらせけり

……

竹取の翁にうつほのとしかけを合せてあらそふ

なよ竹のよゝにふりにける事をかしきふしもなけれと

かくや姫の此世のにこりにもけかれす

はるかに思ひのほれる契たかく神世の事なめれは

あさはかなる女めおよはぬならんかし

といふ右はかくや姫ののほりけん雲井はけにおよはぬ事なれは

たれもしらす此世の契は竹の中にむすひけれは

くたれる人の事とこそは見ゆめれ

ひとつ家の内はてらしけめと

もろこしにある火ねずみの[illegible]

右御もとには[illegible]

[illegible]

そのほか[illegible]の枝[illegible]

[illegible]竹かくや[illegible]

[illegible]とて[illegible]の枝を

ありけると云テ一ハ右大臣安倍のみむらじ

のたまひけるには火ねずみの皮をとりよせて

[illegible]金をとらせて[illegible]かくや[illegible]火

神異経云南方有火山長卅里昼夜火[illegible]火鼠[illegible]

はつかに[illegible]やけ[illegible]火の[illegible]

[illegible]

はり[illegible]

竹取の翁[illegible]

[illegible]の[illegible]竹の中に[illegible]

[illegible]

[illegible]竹の世[illegible]竹の[illegible]

[illegible]

[illegible]竹[illegible]

[illegible]

[illegible]

竹取翁[illegible]

八月十五夜[illegible]月[illegible]

[illegible]

あかいしく[illegible]

あかしあかんとたくくらかくや[illegible]

さこ後のおもてし巨勢相覧者金岡之子と金岡寛平

時人為其子則可為貫之同時人也氏[illegible]

私勘除目文按讃岐目従八位下巨勢朝臣相見

昌泰三年三月除目執筆時平云々

[illegible]唐詩[illegible]

きつんのちく紫檀

うしけの[illegible]中きつし七三歳の時遣唐使にて至彼國

阿倍仲麿[illegible]孝行者也孝心感[illegible]去宮所代[illegible]

十捉終傳[illegible]彼[illegible]國[illegible]

将降雪[illegible]在二後唐[illegible]

斯國へ至りては雨[illegible]ひて[illegible]一天[illegible]

[illegible]出シ弾[illegible]六月の炎暑[illegible]

[illegible]

[illegible]の人[illegible]

[illegible]延喜朱雀[illegible]の[illegible]

[illegible]常則[illegible]道風[illegible]

[illegible]部常則[illegible]の[illegible]小野[illegible]

[illegible]

正之[illegible]

[illegible]世[illegible]左[illegible]

後の法のしるしに伝授の抄物の深きを知りて古今集をは
家々にわかち置く
よろづの事をかくしをきし正三位の物語のまさしき事也
たゞしけし古方の大式の御めのとのむすめはけし花山院の御物語
西にれんし左方の大伴しの法のかくさんやたゞしもとをと
わざし割してあり書の也こゝろの深きえおもうして
也正三位物語のまことに梵字の中の事也とこゝに
業平のすいなまし正三位物語のましし大和ミトヨミことをいとまきし給
遺作者は世にあらはしてありし文徳天皇の御女文正三位の
仍て公人なら一つ民のをば業平といふことをとかへてくり
ぬし安の絵の一つ伊勢物語と書かれ次
斎

いにしへより業平の中将の日記と云へる本あり
やまとうたのしるしなれば一巻をもてとむるかなるべし
ようにいふ伊勢物語と云は伊勢の守年久しく伊勢にすみし
業平のまゝにて伊勢物語とかくにいひて伊勢を織として
ようするに業平の花世に伊勢物語といふなり
伊勢物語とすること事をあまさずいふ伊勢物語のはしなり
やゝ好色の伝文やしるし伊勢物語と云ふ
是をみてなに心えんと花
一説に云の業平伊勢物語の当所日向伊勢物語
正三位の物語の書のしるし一にて小町大[illegible]
ところの本のかならず是にはいつてんと伝の抄物をなし

此度歌合ハ新古今の内によりて[illegible]番一首[illegible]
のせ合はさせ給ふ上のこころ[illegible]
[illegible]みきはけし右[illegible]歌合勝負判の後[illegible]
寛平菊合永承八年内裏根合都芳門院[illegible]
合寛子皇后宮扇合上東門院菊合正子内親王歌合
其後禖子内親王歌合し[illegible]の皇子[illegible]
[illegible]の世のこと[illegible]花さかしけ
天河の雲[illegible]天徳の歌合と
横せり[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]首ハ歌[illegible]今の世には紙[illegible]
番[illegible]上達部[illegible]下[illegible]皆[illegible]
すへし
中納言ハ人[illegible]し中納言[illegible]宮をあけて[illegible]
院[illegible]し[illegible]
[illegible]の節会　一年中の節会
宴[illegible]事[illegible]体相撲[illegible]
[illegible]戦[illegible]あり
又戦世の[illegible]相撲[illegible]の
[illegible]
[illegible]

かゝるたくひなくありさまに時に成り給ふ事は勅撰
しられのゝちをはらぬ帝の御子事あるに
の昔のはくくれ九代朱雀院の御ときより
義しかくそらにくもる世の歌の物語のはしに
見えけりく仮名の序は花
こゝへ仰をにこりなきこゝろちんの流のことを述べ
文流をえたりするいつかへ定はしめ
さんなり縫さし不望之妻臣勢金岡孫
花鳥の使
好色の家には心業ばかりて

一思ふこゝろくそわかまくも右に
ことさら内の事をも文院の名をかくし淳和院の名を
まゐらかけり雑てりけり
花をかくし朱雀院の内裏をあらはさゐて
嵯峨院云々
かくは給ふに朱雀院の内心に法皇の女房の文内とか
いろくまりいめしきに
九云朱の世々の礼は云々
昔しよしの仁きしれ大様花かくのなみ
おくに首をのんえ髪の哭
好色の家には
乞食之客

いさし志よ申にいくまい侍りて花くきゝ我ハ金ニ成ハ[illegible]
德ともんふくさう[illegible]にまかしもまさねと[illegible]
あるらし新古今也
志あり、らむるし、[illegible]すさねも肯もやうよわらし 一本 茂き
かくもしくし、聞事忍しさんし院の御かた忍ゝめの本にも
おきい花さちらへて志あ物ろうとよ紅り花 神代の事
とふるうとうと文紙三と後拾遺我身とよらへてこし文
禁中ふんもあつ神代の若事とも朱雀院の御事忍ひさとと
縹唐紙 朱雀院
めかし世とうし院の御かたの住ゝて女三宮ちと侍りし薄雲
ならへて節し源氏のく新古今と冷泉院へ中ト 秋の事とも

くさゝめの紙の判し
くらもうのきくよし朧月夜の御事ともさ文 [illegible]
めかうくで事し 哢 弟子同し 哢 文字のなし
院の御方ハ朱雀院とて院ハ母后弘徽殿の后のかくらう侍りて忍
弘徽殿の后にもの宮の侍りて權中納言の君（侍ら
弘徽殿の女御そくもはずくへし 哢
内侍督のて院の御後は付くハ花村さらし朧月夜の御事
そのきとさしめて十三月廿日あまりし哢つくうし
ゝめの御繪合し花
見くう右し左[illegible]右の弘徽殿の御方そ藤壺そ左とし 哢
女房ちさうし、ことし十三葉の繪合し梅壺の女御ハ実徳
四年十三月 三 内裏に繪合と催して[illegible]

ゐの浪して不出事甚土盤所至御倚子南[illegible]

女房座以三間為右府[illegible]殿南北敷繧繝端畳為公卿

座簀子為侍従座と西宮記に見へたり[illegible]

大かうんのそこに天徳哥合左方洲濱紫檀[illegible]

机は紫綺地敷て今案左方繪は紫檀の筥に入て[illegible]

本になれる花足にする文にはくえあり その覆も紫の

かのかしさ打敷は[illegible]

紅梁のかくの綺也天徳のすゝ[illegible]

[illegible]紫の綺を花[illegible]花 花足は机の足也

くその[illegible]花[illegible]

[illegible]六寸絵[illegible]涌[illegible]故[illegible]

若女のうへに[illegible]花に小[illegible]

小[illegible]かざしに[illegible]袖[illegible]

かさ[illegible]すは紫[illegible]萠黄[illegible]

花は[illegible]下[illegible]天徳哥合右方洲濱沈

机浅香下机浅渫浮文織物地敷今案右方繪は沈

[illegible]

本[illegible]沈のあさき[illegible]

[illegible]下[illegible]地[illegible]

[illegible]花[illegible]

[illegible]河海[illegible]

[illegible]

色としハあはれしあはれのうちところ柳のかくこゝろ秋のはかなくかく
さくらこそ河海云在てらハあつきたるを云ハ新楽天平楽也
かくらうたこそ今案也ことにからのさ右ハこまの舞を
かんてくらう文選ハ唐楽右ハ高麗楽ところに
一段 あはれこゝろえてこそ声のもしやとこそあとの文をかの杵はかの
河かさ文ハかくやとさ楽にあくさしらうその柳の花ところ霰あ
ところ云哉ハ柳もとゝふ
山吹ハ今の面を候くら楽其款冬かとそ山吹と云款冬と
うら紅ハとも山吹とも云と一勘 畢
斗立
きまろかくも出てらう事也

宮の御前ハあはれ 尚 ちらあはまハ花ところハたとへところ
宮にあとるのひとあはれ高麗とさらうつすや あはれとて一
同本トハ法楽 行事ハ帝王只也
宮の日頃安し鶯のなりにて云云此気の花にくし判者し
いとらしあそ王中宮に絵を好ませ給ひて
かくしさめしわきてとくしく興あるに思して御
内侍のかみハ中宮は斎宮の女御は章本をすめ
あはれ絵はことやしまてくらうとておかしのみくらめ
絵やうやあんとそり此人絵の上手にふくめるは最も
の批判あそ候てし
色は雲の下絵は所は此季を並べてや
かく気ハ前ハ名ハ題くらうし絵のあはれとくらけ
日次ノ名
気し心さし力にそれくさ絵あはれにも何にも書きさ

かてふんの○しくら今のあさまくかろく首のめぐら
まくらいおとくろ詞はりまたの字しかうき心ふるかろ
判者の無拠もしとゝあたら絵とけ沙汰の絵とうけ
や枝造中九詞云竜蔵公かとあさ馬とけり而ゝ花あり
めそのなりはしき筆の上手にて心見事らえあるや
にのんよけんうしきる今のいろみ給ひき）蒼そてのろうきらて
乃筆あろうらうり
いまのあさりろうし今の書きか絵ハ筆のいさまくあるて
今のあさまろうとも首のあろうさてちらぬとも
あさうれの上品絶とひけらふあさうれのぶりそてある
至于の作御ふ前ゝ中字らし寸やら

いしの絵の光ゝ詞とくも（なむ
たかは今もさむつ右今ゝ負指上かあるし之便の沙汰ゝ
金銀前段ゝと洲濱ゝ色つくろかさりの前ゝ花之花
の枝かく分をらねさし花　左方ゝ敗のらとし今ゝ一番
うろ人ゝ町波人の絵出ゝる　詳
あるからんゝしてしうつきゝの方らしてその書き大臓ぬさ
絵とえりのつして甲ぬとさ給ふ也
けなりうし者為ゝ
まりのくりしきし日記するのやうしかるてさらぬ也
それうつ長め天以あ今　左勝負九ゝ　花
物いふあるゝれかし源氏ノとかむ

洗硯は詩をかし硯台のさんの事

さいくしいはむかし齋四者好学不倦顔命死矣命吾文

數奇詩人薄命 文集 才貴命賤物憎

[illegible]の人のおもしろきおもしろからぬ[illegible]

[illegible]のをねがふ事ひと命を事とおもふ事いふ[illegible]

[illegible]事ありてさんさいのことをしへ[illegible]

[illegible]銭ありけれ事をすくなくしれさる[illegible]

給ふやさそてはのおしくおもひしかへりて

[illegible]濃の[illegible]のをかくしまひさせ[illegible] 花

かんさいは世を後事をいは[illegible] 帝 [illegible]

何文[illegible] 詩[illegible]

[illegible]の[illegible]

[illegible]のゆへをもとむる事はそれ[illegible]

[illegible]の絃をさせ事[illegible]

[illegible] 入[illegible]

のらのまきにやしらすへの事

[illegible]師文へ深の絃[illegible]

[illegible]師の文の[illegible]

[illegible]

[illegible]あんにはうへきうる事は[illegible]

行の[illegible]

学そは昔惑ありてそのちへあるへし学をいるへし上[illegible]

羽は行の[illegible]

てんせいはその事はまつらしまつりまつりて[illegible]

碁[illegible]碁は東坡も不能の一也[illegible]

[illegible]園[illegible]

[illegible]

それぬしとろ[illegible]縫[illegible]家の人の中に

家の子[illegible]其[illegible]

よく[illegible]好人[illegible]

院の[illegible]相侍

文才[illegible]

家その[illegible]管絃の[illegible]道[illegible]

まことに源氏の君の[illegible]事ハ[illegible]

一世源氏中[illegible]大臣信公の例をとりて[illegible]琴[illegible]

[illegible]一勤[illegible]

[illegible]紅[illegible]

[illegible]院[illegible]

[illegible]

[illegible]あらめの[illegible]

[illegible]李部王記兼平[illegible]新嘗会勅[illegible]書司

[illegible]侍從[illegible]奈良之[illegible]書司[illegible]

和琴[illegible]置[illegible]前[illegible]案物[illegible]

名[illegible]

司[illegible]の[illegible]和琴[illegible]和琴[illegible]

[illegible]の[illegible]

[illegible]

[illegible]権中納言の[illegible]源氏の[illegible]

[illegible]師の[illegible]

[illegible]

ものしたる後に少将は但馬其頭は人々柏子をとり
助君ともに経房とかり那由の事也
又も○ちかし別にして孫を従へり給ふ時に文給の判者也
御宿にて別に孫を行けり給ふ
あらくの人に為世の中をもせ給へ
一本中宮とさふらふはあれは理なり或は河海のを注して
愚案是に同じ其外は源氏物語の巻は今見給へる
源氏の君の東宮せ給へ（是は中宮とさふらふ（きいれ宮
又同中宮とさふらふは世まかへ（こと也）かくてら所
御こと一帖つらさすくのあらさまをかへ

行つらは首尾相叶ひたる心はいつきの詞にて
めのこのまきれとゆるしなむせ行つはあつられたる
ものを歌なりしの花の筆なりされ源氏の
とゆかしく思ひ給ふる事なる花さかと恵の給ふ
おもしろき所なとへ行ての絵をも見てあれ
らんしあるなのらし
おもしろくてそし紙のうへの手にて
いつはりて源氏の松つりをさいさし給ふ
心やすし須磨の心はからの秋風
はてさん
らへのいんなし須磨のあたり

さゆへさせ玉ふ ゑらの束を取らして文梅の事しめりしより称

はなはしり女房にくまうしより延喜天暦の聖代といひならはし

冷泉院ハ天暦の御子にしてくわうし御命は短し

その外天徳の頃令もはは代の事は花もあらしとて

おそれながら世しものさかし 史記ニ大名之下久不可以居

漢書ニ 位高身危財多ハ命殆 功成名遂身退天之

道也

この院は女の位し冷泉の院とあひなりて

中のうれしきかろうし 命も事との事をあてにしかなひ

かり前事一生の思ひ 常に済しの事を流しまへなくてうき月見

難也 はむを下まめりての給

御堂ばにてせし嘉城にゑ御堂をすてつゝ事 松風の吹あるゝ

大井の雲も当りをやしくかひおもしへてさらさうて花

すゑのさんもうりし 夕雲しけ 御名 姫君あかさ

おしき 弁

こうしはてし 此町はいまくあつまりし

いうしきりうし 何のわくへそとし 遊女とて吸出

餘合 終

須磨十二巻の名一須磨に源氏須磨に住給ふ故也

今巻も同年(古抄)

げんじの院し女巻に六年の春より三年の秋の

の流と所々にて此物語の須磨の巻を

は此物語はうたがはしからず明石といふ巻あり

とかくうちいふ事なれど

ごみやかに花のうへ

いま石山寺にまうでて須磨明石の巻より書始たり

にのさいしよく花の物語の事ふかし源氏の前に宮の花

数(八月十五夜の月湖水にうつる)有て紫式部は西東の宮に参りて西東に

ひんでんは石山寺にこもりて源氏の物語を思ひはじめし

見侍る物の上のかたにて河海の説にや

何海云紫式部は上東門院の女房所に源氏の物語をかきて仁の記也云々

聘則為妻奔則為妾 聘ハ礼ヲ以迎ルと云奔ハ無媒也
されハ此君達も数妾に従ふて寵愛をうけ給ふ行末を
花散里ハ此頃源氏の東院へうつしまいらせて東院の
西對に住り 東院の寝殿ハ源氏の休所とて當分ハ
うけ給ハぬとさう様也
あかしハ此せうそくしけの心ありあるへしとも云わかさいそくして
なんとならハ中空の浮の海の心也
中ころそのけしきわかちのあしくてハある御心のすさひ也
ましく京ハ入の御すまひとのこすかね頼みて也
けにのおほえうせしゆかりの娘君の事をさへかくすなる心そ
又ゆうくらそし一人の心むしりなく當家ををさへとさけさしく似ていとこそ
あやなすからもしけれハ心のかなへ也
なかもしくさ此もしのかへ心にかけて事なれハ中くに
くるしき也
むかし母君の御祖 醍醐帝子中務兼明親王山荘在奔河畔
号雄蔵殿也 此親王を此君の祖父とそ 兼明親王と
申して在り
思ひける事しるしハ小二条と云侍従世をそしりて領し給ふ
さるへき物もあらし雑司ちかくありけるをさしてあつけ
ちかきをと云事しもうちすてゝ修理をもなく也
此巻の比より内大臣ハ源氏の御すまゐをこそいうかなへ家
うきて絵合の巻の事とみゆ出せり御堂を構
霞 嵯峨寺と思ふこゝろにて作りたれて大覚寺の南にあたりて

かくいへる棲霞観ハ左大臣融公の山荘也後ニ寺となり
て棲霞寺といふ今の清凉寺ハ其東にある阿弥陀堂是
清凉寺ハそのあとにある寺也　小野宮右府記永延元年
八月十八日法橋上人位奝然申請云以愛太子山為立
堂宇安清凉寺建立一伽藍置白栴檀釈迦尊像之
此釈迦ハ奝然入唐して渡しまつる仏なり仍清凉
寺といふ名ハ昔よりありし貞観七年の国史に見えたり
又李部王記天慶ニハ棲霞寺ノ阿弥陀堂とみえたり
奝然のわたりしよりさきに阿弥陀堂ありしにや此あたりもとおはしき
寺也所詮清凉寺とはふるくよりの中に奝然別に堂
をたてゝ三体の阿弥陀を安置しまいらせたるや覧

三体トハ丈六ニ丈六ヨリ震旦日本也

棲霞観
棲霞寺
後ニ寺トナル

[illegible]
[illegible]してゝ
[illegible]閑かにこもり[illegible]
やうやう体見えそうらふ
延喜の御子兼明親王の長男伊陟中納言二男伊行
従四位上春宮学士民部大輔也兼明親王ハ文才世に
まされ給へりし[illegible]
かくれさせ給ひし[illegible]侍従中納言[illegible]
も寺にある[illegible]のほとりに[illegible]
菟裘[illegible]まいらせしより絶えんせんとありしかば菟裘賦とて
[illegible]菟裘の字をかきて[illegible]文字に似たる[illegible]
即ち[illegible]の賦の中に[illegible]
設とかきしより[illegible]世に[illegible]

菟音兎
菟裘同
宮ノ草名
又畜ニ[illegible]

未律のきれ給ひ寛平と四[illegible]事ともありける給ひける也[illegible]ハ

二男乃事をしらさりけり [illegible]

をわらしめけりし蛸の意とけれハ[illegible]を略しけり

しれかをききんて 強顔(ツレナキ) 河

そらふくもろ神し [illegible] けんなきに券ハ文書ノ事

ちかの宅ひとし田舎なれとてこゝろなとのむ人

優の事をもひとられて [illegible]

ゆるしおかれし宿る給ひて造作する

かけりくありて[illegible]のゆんて只今は存知 [illegible]

兼のさそはれし田舎ハ何のそてもありけりとし

今ハ寺となりし中にある[illegible]を給ひて知らすかなるも[illegible]

[illegible]

まかくのさしありし[illegible]の[illegible]

顔(?)しくるしふ[illegible]かゝるへく

らるゝころしもしくしかへりてんは給ひのあり [illegible]

[illegible]給ひ室(?)しこえなるといひて嵯峨天

皇昔日(ソノカミ)閑叙融也[illegible]ハ融大臣トいひし大臣の[illegible]

[illegible]の棲霞観なりしに[illegible]なりて[illegible]をもる[illegible]

寺と[illegible]し棲霞寺とあらためて[illegible]清凉寺ハ嵯峨の山

荘との清凉寺の東のあたりて堂也

拾遺(シフ) 赤染衛門 あれよりみなそらかゝる[illegible]

そハ[illegible]あまた集り見えたるの[illegible]の石[illegible]ハ

らつさひく[illegible]とこそかつて赤染かへ

[illegible]かくかゝ[illegible]

鶴はやまとのこと[illegible]前なり[illegible]鶴は[illegible]にて[illegible]
[illegible]鶴ハ[illegible]なり
[illegible]川[illegible]是ハ玉井[illegible]の事也
[illegible]のいふ[illegible]玉井の[illegible]のまねびいひけるハ[illegible]
のよせりけるとふかるや
[illegible]事をなげきつる作やう[illegible]やうふかく面白き[illegible]
[illegible]明石の[illegible]京[illegible]
[illegible]のうらなれ[illegible]の[illegible]かられへとうやうしくなら[illegible]
花 [illegible]
[illegible]事をのこし明石の入道[illegible]くる事をかきし
[illegible]

ましてやこれハ[illegible]かけハ[illegible]
よろ事なれ入道の娘をいかゞせんと思ひ給ふ心の
[illegible]本の[illegible]音[illegible]
[illegible] 花 安藝[illegible]本[illegible]
[illegible]本[illegible]
本のみなもと[illegible]やう[illegible]
ゆてすれハ[illegible]明石入道の事 是ハ入道せよとぞ
[illegible]をとりて[illegible]入道とハ明石入道とぞ
花の京[illegible]花の[illegible]明石入道ハ大臣の末にて
さればわろき[illegible]出家してつくり[illegible]
[illegible]
有[illegible]有[illegible]なり[illegible]

爲ゝにあてゝ御まへ
よろこ人しゆゑよそひ給へくはかなくのみかとよりし寄しく
は御の入りしつさとえふんで
よすり源のあくりいろしくてゆへくの事
むしの夢とさりめてわつわらすお腰ふりのあつくしさん
しも中の夢とさりめへわつはいふや
いみしとりしまれはしいかを飛さけにいすれいりのや
よろひるらんを楚王の玉も夜光玉とて魚の車おゝひ
合十二乗なんとられけるし　史記曰尚有径寸之珠照車前後
各十二乗　随侯蛇の疵を愈し　家れい其蛇寸之珠を含
たへすり恩を報せしむ　夜中にて光わたり[illegible]

余ひかりんの璧ハ玉をみかきて求めんとおもひ[illegible]
むかしそのかみ楚の山にしてひろひ給ひけるを玉作り見せ
[illegible]王に献しけれは[illegible]中を養して文王好みて卞
和か足を切らる逐放ッ其足を絶くはんを抱て経
き三年有て文王位に即く荒を文[illegible]を抱て[illegible]
いさんのらくはんとも文王[illegible]依て右足を
和切られ太子武王即て璧せて[illegible]玉とし映
徹して夜[illegible]玉として光を行路[illegible]車十七乗
を照し照車の玉[illegible]光を宮殿に照られ十二街を羅
光し夜光の玉として光付[illegible]代[illegible]天下の[illegible]
宝[illegible]趙[illegible]の玉と[illegible]文王[illegible]斉[illegible]
窓[illegible]の古事雖多略之卞和玉[illegible]

それにて一度ご覧 蔵宝[illegible] 明石の[illegible]

行きされんとする[illegible] 明石入道[illegible]

まうけし 教へし 尼の家にまうけし 柱を出し 入道の娘に

のちに成て下し 何の事に 将中の[illegible]清水[illegible]

或は 若紫に[illegible]まいらせん[illegible]

いとこゝろあり 紅梅 御覧

うら 真らし 明石上 御覧ん 尼 御覧ん

御いそぎ みーなは 明石上 又おひらんもる給 入道と[illegible]

村上 行く

とりふくしとし 明石の入道と遣[illegible]

かくては 入道の御いさす[illegible] 紅梅の御[illegible]

世の中[illegible]の女[illegible] 世[illegible]

をやめ[illegible]の事[illegible] 御國へ[illegible]の事[illegible]

我が世[illegible]ひとつて[illegible]のかう[illegible]

みし[illegible]我思ひて[illegible]

教への[illegible]おもひ給ひ[illegible]

小くは[illegible]大臣の[illegible]

思ひ[illegible]思ひけれ事の[illegible]

さて[illegible]かくて[illegible]

心[illegible]かく[illegible]やさしき[illegible]

さりし[illegible]大臣 我が女の事を[illegible]

教へ[illegible]御國の[illegible]

[illegible]

あやのたかきやけし初心ハ孝経ニ付国風與
人ことにもてあそひて世ニしらせんと
きかうらしきさせしとあゆみて人の
錦とかくゆゑ上のおもひをとるそあたる中にもありせんハ人の
やまの紅葉のにしきと思ひけらしめならて錦に
なみとまて秋の錦のなる文字と思ひやるのことあり富貴
不皈古郷如衣錦夜行　朱買臣伝
思ひかへて思ひもよらす浅のほとに
ことさまとハ人の心絹浅と上
ハ人のしらぬ也
きえにかりいふしゆふよみきしけり紅葉の事に

ある人云人のしる浄名経云天上欲退時心生大苦悩地獄
諸苦毒十六不及一果報若人還随三途
地獄餓鬼畜生を三途といふ修羅をかけて四悪趣と
をつけ六道とも三途ハ三悪道也天上に生れん人の
三途としてそのうへ
命つきる人の心絹は下絹

例ノ夕顔石ハヤラス之

なき人をこひわふる夕日のさひしさに[illegible]
うきおもひし流れのくろ髪のみさ[illegible]晴らさんとおもひつゝ[illegible]
世をのかるゝ尼君の心也
かのこしき彼岸ハ明石浦ニ云彼岸[illegible]
彭の業也 文揚集への身をそ世とかさなる[illegible]
卻への[illegible]心也 尼君也
いくよりか明石と張騫漢武帝ノ使にて[illegible]
の源を究て牛女にあひし事を思ひて[illegible]
天の河[illegible]
あはれなるはし須風の事也
[illegible]日さくらをし明石と[illegible]

[illegible]年[illegible]の[illegible]

[illegible]大井河の[illegible]浦[illegible]
[illegible]家司也
大井の宿ハ家司也[illegible]
[illegible]源氏の[illegible]
[illegible]大井の[illegible]
[illegible]よりも[illegible]
[illegible]明石の[illegible]
[illegible]源氏の明石也[illegible]
[illegible]
[illegible]

明石巻にて此佛の事は松風をきゝて侍かなしく
明石をもとめし也文章明親の事を思はなくてや一体
須磨にてかはりぬ世の中ぞすゝめし也文章の何もかも
昔尼君が昔のまゝにてよろしく人とて尼君すまひ
おかしき人は御ありてとふとてもこゑ　源氏の尼君の歌
ちゝ君に明石との歌也此歌は明石の女の歌なる事とて
も入道の事にて更なる人ゝのさなから御琴を
すゝめし琴の字をとせられ給はせらんは殊にあはれむ
人のためさうつゝや
かゝる折ふしなくて源氏の君も給事と
かはらぬ心をもつて明石の君にて今の中々かなしき事なれば也

女君にも此の巻とも明石の事をかくかなしくも
[illegible]
[illegible]
なかなかの事の作し源氏に堂をそ源氏の
その心のやうに文下袖にこその堂をもかきあはせ給
れとにいふ也今京にてあきらかに別にそこにたて按察使
おもて修理の事ありしとみ
弓をいかに明石の君をかこちて給
かきりなきしらぬものゝ心をかなしき事
とられ給ひてそのたゝしれ京の泊にあやまちかくて
もかくて川のかたへおもくなりて別にもなまして袖をさと
のまゝにさいかきのやうの事にて文を給はりて按察使
思ひ給ひてその給ふや按察使は按察使にと思ひやるに
御方堂の辺にいたし古注に按察使は明石と思ひて給ひける

あやめもわかぬころ　花
菊にえさかりなき事は菊は桐也雨也とのくらゐにて、
ことすくなき事ともあまたありけり桐おりしわざ也　晋王質
室山に入て碁をうちて斧柄のくちし古事也　柯
そのころかいみれは世中もかはりてけり
きのくにくらしさし源氏の大井へおはします紫の上の
乃御かたの給ひて源氏の給ひ源氏のかた紫の上の人々
の御かたをりてかしこき事し
よりの御かたにこし源氏のおほきさみにしてあの御方
とよ給ひきのくにしくらしきとも給し女美
うし何らかの御心の御給ひて[illegible]

[illegible]世の人[illegible]
うちやみてしは紫の上の御心を源氏のうちに行也
すそうし御心源氏の大井へおはしますまじき
かの大井の人しは明石の人のかたらん源氏の明石にては饗の
懐旧のむかしをおもひ出しこの御事ともまじく
ましていまの御かたをもくいふこと
思もあひけるし御心をみ給ふ源氏を見給ひてかへり思ひ給ふ
とや　忍ぶ給ふもしらせまじきもとしひらしう　又ある本には心あり
明石もこの紫の上の御かたに明石姫君の
大殿にこの源氏の御心に夕霧の夕霧をのみ
大政大臣[illegible]せしの
かくてはらくかくおぼしけり源氏の御仲明石姫君の事を[illegible]

かすかさんや山ハ山上の[illegible]也 伊勢遷宮のおりんにそ
十月に山参ありて杣入のいしめといへり[illegible]
つくる[illegible]の御杣ありて廿一年に一度有之 十七年に
ある年山参にて十月に杣に入始て御材木を取也
廿年目に遷宮也 あして[illegible]のしめを云也 ありはてすゝみ
山口祭しての事也 文寶抄ニも[illegible]
人ハ柴を[illegible]ゆうさくおりふし杣[illegible]のから
ちふ嶺の山ハ[illegible]ゆうへてゆうしん[illegible]
思の外[illegible]御[illegible]山ハ[illegible]ありて
こゝろもしく雲ノ一千年雲のたゝし
みかさの山ハ 二条院の御事也

[illegible]掛けて[illegible]の大井の一[illegible]也
せんさいのおもしろき一大井家の藤花の事也
ゆくとしくれもしも首にちあつくて[illegible]
昔ハ両家ハあらさやうあれハおいすさしたらん花
定家卿の歌とあくまあすると[illegible]ふんをとる
ふ可思ひしにし一條のへ御詠とふ 御歌かくされし 河
ふりさそくときくふへんこ見せていくて覚へ給ふ
覚ハふて[illegible]氏の家の御家の事を語り給ふまやされ
あつのに後[illegible]とてあつ[illegible]て[illegible]ひから
しつもすおつくへとめつハくつくしうしてしても
みくろ兼実とある事にてかくうつ給ふ也 体 左大臣家として
三条家実ハ[illegible]やう[illegible]とあり[illegible]思

源氏也　惣じて始終になりしこと、あさき結構にしあるに

よきへいろのいみじきこゝろもしらず、世にかゝる秋の夜の

あはれなる花鳥の美をしらずして、まことにものゝ京の人

おさなきをいだしやれもせぬ、きらきらしきものゝけ也　きよげとは きよらなる也

尼君のことそれ　明石の母也

東の対の大井山荘の事をかうかう語る也

いらさせらる御のかげに何ぞ御心也

いとおかしく思ひし　尼君のみかた也

あかり出てさへ あやしうとのゝ御心のうちを思ひやるらんとて尼君の御かた

行く源氏の思ひやるもしどけなく礼儀を捨へてかへる

まゐりたまふ時に源氏の御詞に尼君の心やすく思召也

そこを源氏の……尼君のおもふやうに……尼君に対して

御返しの返歌也　源氏の……

ゆるされ給ひて尼君ふるまひての心の返事也　御方の尼君

給ふ返歌の事也

みじかき八重の道の事也

まして御世を尼君の返歌也　此世をへだてんといふおもひなんかう

しりぞきし

川 こゝにおかしう侍るよし　抑いまそうして尼君ふみ……けうじてまかりて

おく旅立けし二葉松のかずは明石の尼君の事也　明石尼の返し（給ふ

源氏 川 このいとへんとさはひをそへてあかぬのなかしこまりて 富にとられ奥

あさき旅立し尼君の明石の姫君母方の種姓を卑

しくしてあさき旅立してたがひの思ひ也　いやしくらうらうしくて

さ源氏の返歌也　……三条也……さしよりおきて

むかし物語にみえたるはなにがし兼明親王天延三年八月十三日
亀山に祈水祭文あり後の世にて小倉山のふもと嵯峨の
中にその家に紀あらし或紀にこもり給ひ花
たるあき紀に移さしやうし平井の祠とあさましかりける
段歌よの事をの給ひし　等
あの〇まかひとこし水の音し思ひとそへけるかなにて海しき
たからにめしまきて石をそうせられて見るこのすさ紀
むかしかくりうとあらうるふるかやうにこゝろおもひ
あの舎も海しと懐かしくられ文をいはれたるやう
水にそとも今も家をつかさ待ちあまりし君むかし〇ぬらん
経りしあたりたるくりて中にあやまちのかし源氏
ひ〇目らに〇〇〇〇〇ふ尼〇〇の事也秋はさらに〇らいしい水
家のあるじ〇〇〇〇
まことは〇くしこゝやぶれたるらしきけふおもひやりしのあふ事也
いさ〇井は〇〇の〇〇にいさ井といふらむ清水の井ともいふ
ちやくの事とは世の〇〇やくらつる事也あとよせてや
やくらいしるうあとはやまと世をさしはすまりしきとのける
あはれの都へ〇〇〇〇くるまくの花のさとへ〇〇かくうてさを
此花よくあるまじとりてかくらあり
うち〇〇ふさらとに源氏の事也
中宮よしよろ〇〇〇〇〇法成寺堂の事也大井前へ〇〇
〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
同じの中〇〇〇〇〇〇〇仏の縁日〇〇〇〇〇〇の〇〇

月にこそなりけりの昔思ひやられてさしつどひけるなるへし
右日ハ普賢ノ縁日十五日ハ阿弥陀縁日八日ハ釈迦ノ縁日也　李部
王記天慶八年三月廿七日重明就棲霞寺新堂修ニ
先室藤原氏ノ周忌法會安置金色等身ノ釈迦如来
像一躰ニ圖記棲霞寺ノ釈迦堂ニ三僧修法華三昧六僧修
料稲七千束丹波播磨ノ國加挙ノ事奏請之永代長講
三昧ヲ行ヒ見へたり今の物語にも常行三昧とはじめて
語らひ思ひよせさるへしおほせらるゝ思あはせて
月のあかきに紛らはしくての御堂にて丹波守の語
あけくれ御あはれなる思ひかはし給ひし事
かやうにうちかたらひしかはしてものし給ふ事
さしつどひてかたらはしとて今のやうにおもほし給ふなりしをの
いはずかたらずうかゝひけるにうちかゝりてしたひし事
契りかはしけるは源氏の思ひをはかなくかへしけるも
ひとつ心にてなほ、ときこえさせ給ひしかはそれをしのびつゝ
よるのなごりはちらぬうちにやとさへ
かくしも契りしなげかしうのかひなきを
それのみこそあはれなる事にてありけめ
おもかげにたちそひてやまめ
あけくれあはれにかなしき心のうちを
あはれなるかたみにのこりしこの花
又あひみてなほつらきこの世のかはりを
又源氏のことのはしもまたかはりたてゝあはれなるをば

こよひの月ハ源氏の明石のいにしへをおもひいつる
行くらくしく也あかしをおもひ出しまひて
若君ハ源氏の明石姫君の事也
後にはねたみし紫上の継子にてさかしくおもひたまひし女
とらけりさうらん事いふなり
おさなき心ちし かくらひしく姫君の事也
いくよへても おほかたし源氏 好色也
光る君也 このよしを大井殿より京へ姫君と桂院
御送り人ていひしも桂院へ行てあらし
おもひ給ふ人ハ大井里にて多様也
里をもはなれ 里ともいつしさてかくの人い

さゝらす思ひ給はて乳母の様 明石のいへにかへりたまふ
ことはそもそもかくてもみかのとしなる御ありさまを
いはゝなるけむり源氏の御姫君ハたゞ源氏にして行なり
さて明石上にもむかしをおもひ行なるの様也
よろつ思ひてハいつもせめてありし事をあらためし
源氏の様也 さてハ母君とさして云
ちらさひくしし女君とめしかく源氏の君御使をさせて
かくらい也
あまのをとめしし女君の上臈めしし
をかしくおかさんし明石上の事也
末つかくしもさらかてれはこそ也さていふ人か詞也
かくいひもらせていはんものし内親王にいふてしうらんと也

さしたるめし物の拜をたまはりてしかもさかへてしかも
めしたる物もたまはりて御送り給ふやうにて
ものの中にしける事の内しく物たまはりて休らはせ
給ひけるやうにてさうらひてあれはあるにせよ
よはらぬあれあひ給ひし物たまはりて給ひ
めうりのおとこしるしたり
九云荒人右近将監一條左大臣二男
かのもとけさりし解官せらる
尉にある也しありとて衣をもとに筆した
ゆけいのせうかくしかしらえてた給ひし紅
きうたのうたよりしゆけいのせう様を内から
ちかくさるもかくしもかくてかくしとも
めおもはれたかのしりしりのもとも
蝶の筆にしりてまかるかの内のをかみて
八重山にしるし女房の様に八重とも雲もれ筆に袋
雲の山にしれしかるに大井の御幸の物のあはれの落ちくれ
まかりさうら物とも人も世の御為に
雲の八重たつ山やまあはれ
川
雨雲の八重の山の竹の内にありてあやしけの
ほとゝもの難をしたりてせんし友とらはれ首にあはれ
川
いへの細とものかしも女のうたにうた
このやしゆけいのせうのに物よろしく良清に給ひし
人からう浪の物をさるまかけにさきの事のひろうさしき
かくて帰りかくしこのやうにそれ男の果報とてあさ
りやそ我も思ひなくしてもあかさうらしもなほ給ひて筆に

笑てあそふ人々ハ秋ハものおもひなりし事とも思ひ
出しつゝ歎く 文言秋ハ思ふちからはなれたる波なりし
ふくの浮沈の思ひハ秋もあはれにふかゝらや女房の涙く
れうしおもひすてゝふかゝらしとひとつまあはれなれハ秋
おもひとひもそてのやのかゝやらし今ハとさてるへに[illegible]
とまりてしらぬ 花をも[illegible]涙とおもひそむされなとハ
りおもしろく[illegible]やはた紀貫之か事に[illegible]涙
を情ニ人ちらすく[illegible]名上てとおもふさよしもあはれなりしとし
さて似たるもとて涙落つ[illegible]あはれふかく花ゆけめ
尉か結し 鞠屋ハたた[illegible]行なと云
翁ハやうそてしらしけらる柳 [illegible]東丸翁[illegible]

[illegible]隠家ハ[illegible]たちまちの[illegible]
窓を逆のやてゝ見えあはれ[illegible]行なとら[illegible]
その月に紅おもしろき逆の名[illegible] 小鷺[illegible]
てそあはれ[illegible]両日[illegible]一思ひ
ふかくしの[illegible]のしられぬ 小鳥萩なとの[illegible]花
うちひらきめしうつしとおもひの火ハ[illegible]の[illegible]の
いくう思ひ[illegible]
饗[illegible]あはれ饗[illegible]くおもしろき事[illegible]
耕[illegible]とゆかしく[illegible]かくひとつの今[illegible]
小倉[illegible]さかし定家ハ萩の枝を[illegible]
紀流[illegible]さらまの枝を[illegible]前の[illegible]
て用く[illegible]萩菊[illegible]けさしさらに家て萩の

枝をよむ〳〵　小鷹狩枝出羽丸と羽の下とをこそみえけれ
とけりハおそらくつくりて狩也と云つてうるさき事とも皆
まさしくされとも此ばけらしき〳〵萩すゝきも蒲萬のおもて
ゆくりとたちり秋を枝と云事を寄て西円法師と親州と
問答の事あり　九折二伝しおのかり
野ふり〳〵傾流て源家くて飲く〳〵とも一献二こん
川のみとろやうけたれし醉中を岸ちつさ〳〵のまし幷
お月もあそひ法楽し　致上人〳〵深し也
家ふ二言の此花〳〵し長非ハ物忘し長非方遠ハおも云る也
ゆかり〳〵し何事とも〳〵も言うち
そのをそれ由し天一神の要し云つてつく〳〵
月〳〵〳〵て
ゆかりし〳〵
せき〳〵深し〳〵月須し
此せしそこおり也し〳〵月ちの深し〳〵のよく傍し花〳〵命頭ん〳〵
月のちむし言冷泉院のあと桂ハ長楽といふ事あら〳〵
あつ月の〳〵次の絢とうやましあつそてきてしくう叙
名苑云月中有河〻水上有桂樹高五百丈河桂依桂
の実とうそ〳〵て〳〵〳〵あり〳〵〳〵〳〵〳〵
か〳〵こまりきたし〳〵のわきと気て礼儀とる〳〵
う〳〵の此桓し〳〵〳〵の〳〵〳〵の〳〵の〳〵詞
わさとおれしおり合言物也〳〵
まるけの柳し諸物ハ被物ふそのさわ女の紅袖を司させ
〳〵花〳〵のの事し

こゝに出る二ケ條ニ弁ハこれハまへにあけ侍き
もろこしにて女の故により世のみたれたる事也
唐にハ女の上まてこそ様也
又この光王ちかくさし添の桐壺の更衣の御腹也 月
毎に御門の御いとをしみ弘徽殿の春宮の御
ゆかしき弘徽殿ハ光君をあやしき下の取沙汰の御
なりしを心配あらす
弘徽殿をいとゝしく女方の中におもひ寵愛あれハ光君を
そねむ事いとおもひて光君をたのむことに弘徽殿の光君をねたみ
御あつかひ御母后の心をおもひはかりて
弘徽殿の中宮七条の宮の御中遠のことにいとひ給ふ所の御事也

後あつかひ
あはれなる御事あらし源氏の君を見奉りし
事かくしもあるそあやにくなる事也
ゑいかたらしかるものの給ふことなりしへしとそ
かゝるきはにかうし御門の御寵愛のことあれ
まうしてとりなしつるハ此の御方にて御乃ちかきさや
かうかくし御方の事をもしるへく思ひ給ひし
うらやましく思ひしハ手源のことにす
後の世まてハ此役績ありて世とうらみなさし
右大弁ハ此弁源氏乃君の鴻臚館にて高麗人にあひ
給ひし時の人にて是達の儒者なりし 此弁ハまさにそれなり
大かたの儒者なり 源氏の高麗人の相をとられしハ七条

の事也[illegible]
[illegible]羅[illegible]事[illegible]
[illegible]文[illegible]左大弁[illegible]
[illegible]の[illegible]の谷ハ[illegible]谷[illegible]古院崩
御の事[illegible]
[illegible]
事[illegible]
か[illegible]
[illegible]双紙
[illegible]酒宴[illegible]
[illegible]大弁[illegible]

[illegible]今[illegible]物節[illegible]近衛舎人の[illegible]東遊
[illegible]物節[illegible]中番長府掌[illegible]
[illegible]春日祭[illegible]祭の使の羽林東遊近衛
[illegible]社頭[illegible]駿河舞[illegible]倍従ハ府生和
倍従近衛の官人倍従ハ和琴[illegible]役[illegible]相
撲の大将還[illegible]有東遊事物節の
[illegible]人長[illegible]近衛舎人
[illegible]中[illegible]長[illegible]近衛中[illegible]
[illegible]上[illegible]長[illegible]番
番[illegible]近衛[illegible]
[illegible]近衛[illegible]物節[illegible]近衛舎人中[illegible]東遊
[illegible]物節[illegible]補[illegible]近
[illegible]諸[illegible]

やゑ近江の人を随身にて参詣し
その後しばしの間も我に参るとてたゆみなく参りけるに、これはいかなる事ぞ
張良真猫
ねきさけ給ひてしくしけるとて、ねんごろにけり、深く御心をつくし参らせ
太井川にて御かたりそそ、太井にて御石上渡しの御物語りなどしける
きこえしかば、さても
成まかりて、二条院へ渡しの御物語りし
御堂の御前にて、大井の事をも申しさせ給ひて侍りけるに
そのかみきこえし二人の者、その堂へ出て御事ども申しあげし
よろしき聞きて、御事ども申されけり
渡しの御遊にて、人々参り、渡し御覧
[illegible]
ありしかば、やがて渡しの御
あまたの人々おほく渡しの御堂にて御渡し御覧じ給ひて、御石上にて
ふかくやすらひて、ほどなく御かへりし給ひて、おもひかへして
なにかは申すべき、御物語り、一ト時の事
御前にてかくて御心ざし深く渡りはてにけり
かくして、太井のわたり
その後しばらくして、太井の渡しをはじめとして行かんとて
ととのへて出立て、渡しの御行く
あまたの人々太井川の渡しをわたりけり
[illegible]
これらかくして渡し御覧じての後、さらに此の渡しの事
かんのうちに渡しの御石上にて思ひける

女三ハ忍ひにやしきのにしるしをおもはれけれともてなし給へる
くらゐも斜し皆源氏の方へ
らいさけうる物ともしらるし明石姫君と源氏のかたへよる
紫上さし家にてかくり給ひて
あはれおほんとして姫君のもし源氏のもとに紫上をはなれうと
わかくあり給へ
おもんはかりしてし紫上は源氏のもとにおはしてさし姫君
とも子はめてたくおもはくはれしこのあひて紫上の給へ
さりけのきよらひとし明石姫君はさる宴紫生蛙吮雖已に
歳而御不立 墨未乾 河川かれいるいとあらきてはて
かへことを此ころはおほえすとして

おほくもし紳着の条
さ守しのをし紫上の御源氏の御はんの色をそへあるへき
あはれよさまうちとけのこんかうとつ賤をあそろ見えたまへ
やしもあらんかたそへ申すとて物えんしあるとしさし
さしあのやうてそこと向後にあらそてんも記思し
いまけうるんに紫上のおきさまくの人にらく我あらんと
の給ふ いふ小も源し源氏のゆかりに明石上を
さりはまかりせし又のはかりそらうまさうやうまれて
胸あはれまして明石のの田家し給ふ 花
宇川さんは祝しあるきれいとのまさうはいちこと一夜のを
御心小物おもひ 明石のの あけかし 夜出う俄しらん為

雅風四て抄　後

簾雲[illegible]

〽第爲巻音文詞云雲のふかくかゝれるかたなりて[illegible]

ありと[illegible]てもとらてみとせうともいふへきや[illegible]

よし世蔵の杜もその手力てこそ杜風も世冨[illegible]とれれて[illegible]

名も[illegible]ちのけくましし大井乃里の事なし

うその名をよろしし明石とや

かちうくさとさわし二条院乃東院とそ

たちこさ一所おかくし宮くくなりもえてもさわれハこくこ宮

[illegible]すくて[illegible]所[illegible]大井ハ京をとられハうりきてせられし

二条院ハ宮をとらく衣られのまさらんハ[illegible]ならへしらし

のうちさくちらし[illegible]をあのまへひとらんし

[illegible]くらし[illegible]の娘さへ[illegible]かはいてもいひてき[illegible]

もろくさいへハ思ふまれうるとて門前の宿ひり
よしひてうち思乱しあんすまじくやうなしとはなり
かくてのちハひんかしの宿さ思忘し姫君の御事を思ひしおもひそめて
たゝくちきにあらし紫上の姫君ハ御おもひ深く源氏
のおもしろうつかうり給へし
ある夜この事ー大明三家司をまねして以下例句結
花の宴ハ此家くれ葵薄あつき一巻
またやうよりかくなりし源氏明石とて對して姫君を見とり
また紙の事あらく給詠ふは
さかきもんら思ひよらし明石の上の源氏の一宮やし
とのたてむらつゆりしく姫君とてなし

ゆうへ母のうそそ……
源氏の姫君の事を……
これハ年経にたしく紫上の……
式部闇あり源しさて源しの明石を語給
前斎宮し新古今とさく紫上の様うやうし源語
むね古今集へ賀茂巻一十四集
あうらあつひし新古今とも紫上のよしてくあつひの語
覚ハおもさへ花ちりてし紫の宮とのうひの給
女君のあうさ御のー紫上の事
家よしてし明石上の調し女君のて御の新給調とけ
一条の給思葛上の卿へのりくれ紫のさ
くよりい給ひへとせ文のてし思の本もし知事なう給とそ

[illegible]行幸[illegible]
[illegible]
[illegible]源氏[illegible]
源氏と[illegible]
[illegible]
[illegible]姫宮の[illegible]
源氏の[illegible]姫宮[illegible]
[illegible]姫宮の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]の中にも[illegible]
[illegible]
[illegible]延喜第一[illegible]
[illegible]母[illegible]温子[illegible]昭宣公[illegible]女[illegible]
て[illegible]西宮ノ左大臣高明[illegible]中務卿兼
明親王[illegible]兄[illegible]賢者[illegible]
人臣[illegible]先例[illegible]
[illegible]源氏の[illegible]左[illegible]の[illegible]
内[illegible]母女御[illegible]大臣[illegible]
[illegible]殿下[illegible]左[illegible]母方[illegible]大臣[illegible]
[illegible]
まして[illegible]大納言[illegible]

ときかりそいり見ゆ、大鏡に云、一条院は御子あまたおはしまし
らんとおもひしかともかなはで、帥宮の御むすめなり、例なり
けるは御父大納言を贈太政大臣になされたる例なり
こそさせ給ひしには
おぼつかなくひきこもりてひさしくなりにける人のむすめの
御かたはひとりかへりて頼み事
かくて人をのみはかなの事にて
親王とあつかひ給ふ事別におもはれける
御子のことく女御と思ひ給ふ事
猶たのみて云ふ源氏の君のみに給へとある
御かたちもいとうつくしうてかたはらいたきまで思ひかなしみ給へる
しかりけれは内にのみさふらひ給ひけり

せさせ給ふとて帥宮の御事
ありめしてかくしめ給ふ
御子の源氏の事と源氏の御子の御事なり
其後御子の源氏の御事になり給ふ
帝御覧して
ゆくへのしらぬ事源氏の御事を
あはれなる御事と思ひて万事源氏の君に
ひとつきにかくれたまひし御事と思へと
うち泣きて君をはなれかたく思し
めでたきおほえの御事もおほし出て
御かたの御子
思ひしりて後の御事ども宮の御もとに御ちかひ

院へ渡り給ふ御心の中にも源氏の御かたの御ゆかりして

めでたき別當へ参し姫宮の御めのとに忍ひ給へるにこそ給し

あやしき事を別當事を明石の御かたの心地して給て

いと若君の事ともに若宮の二葉院へうつり給ふ

めでたき別當へさる事をいふ

いみじくおぼえ給ひて故院もかくやうにと

君もかくし明石のうへのうへの心

案じ給ひて思ひめぐらしの御かた明石の上とも見ん物とて女御の
さるきりや あと思はれまへらせしもえ入れまいれ かりつけのあ

きぬぎぬに思ひしおのこ心ばへ御さまの女御姫宮 このくらゐ

うらみ給ふ事とも事どもの後見して言給へともの御かたへ

さま事にあり給ふ

源氏の御心かゝへ

思ひ給へ出ていふ 御心の程 思ひ給へらるれば

えさせ給へる人 其の川づらて大臣どの御心

思ひ給へ違ひけんかたへ 明石上の人は姫宮の心ざし

ありしそちのうちへとまれ

やうやうつきし明石の御かたへ
さいはひつよう人けれと

うれしき人 明石上ともあるべき事

かへりみん日 明石上のうへにやうやう事を思ひめぐり給へ
上﨟とふれくるかたへ

めでたきのかたにふるへのこそ

思ひ給へる源氏の明石の御かたのかたの御心 御心かくし

とりどりに源氏の御ありさまのこころ くるしみして

ありしもさすがにおぼえ給へる

高ふりてれしめの気比高し高すくそさらぬかなかへすへて
歌かよみて此まうての也べてれ極らるの心
やはしかおけたし さはしさ気の大井（河の国河とく）
きかまらし明石との心に海を行きこゆる也にて来
かとり海つらハ若菜の心しへとてかりしもいかなれ
さらし へやりちかけし　乃ゆし
武ん しそあめあらさし 一夜のかりのかた、にきこえぬ
上古にみそかへ海しておりへて 哀かとやうちみて
上ちらくしく 絶んせしし 海しのろくし哉
めさよいはらし思ひかへし 海
いとらつくし涼しくし 雉の心のわすし海しの文とそ
　前ニ句まこと
いらいの花の歌およ
心今の鳴鶴の猫をふとに是とは春のまちまちて
歌とて事
よくの都し海しの心に是との中で雉をなくへ事
と明石にとて よりあらん
ふらへしの絶あやすし雉の心の海うの事そふちと文の
絶ふかきそのありすてへ絶かへし絶そ
あそうすかくしあやすい若菜そふし絶そふいあるらえ
秋弱くらおしそさ夜あるそのてきそ絶てと
ふらいしの絶あやすい思ひとそかくし思ひそ
めをすうし　思ふ ひまをふの事まとし
ふらいとゆくし 明石にはしたしちくうとしありさるし

此男ハ利ありて能くそ給し松の古木にて見せ給ハ
かくらの名にし姫君も物のふにハ念ろ來まし
来り後さし明石には姫君の事也
おしえあし絆ありし武隈ハ松といふ名なれば子として
其の事也又武隈ハ二本の木あり女と源氏の御事とて絵にて
うら婦や又ハ姫君と母君との事や
也この幕花もし紫にて明石と二本にあり名を見
姫君ハ尼君のあそび様もし都にのぼりてをかしき
て松ハうつくしきあり松と小松といふ宮と姫君なる
う二本の松に寄尼君又母と姫君
さやかし東清明石にて姫君とありて

此武隈の松侍るをも見しく絶し
絵て後又同じ問へまりける時住し所植継し松をかへ
し明らさらや去る人武隈の松を二本といふあり
ありまんと以て親子の様さし小松ハ二度
尼君ありしあり小松ハ姫君松ハ明石
絵にハ一所にして見ふつさとえて
割しろもきとし明石のもとえろし
めとしかねハ一人の名也
はたらしあそびし太刀天見そらし尼覗皇女の
あさ人の嵐まて男しそろ人形しをこのやうわく
まつ人のりてわかひ物し
人夜ひとい
其外くの法のことの事也
人絵事

いときなきやうしん時ならは恩ありけん事を忘るゝ浅ましの
おかしき事　みしおもてし一家院ゆくの西おもて
めのとめしあつくしさまとのけくみそてし
わかひさうらしあひてひきうらし双紙のとらし
さうくろしなり給そてしおもしくはさまよのけくてあれし
まうけすさまちくわんの心也花
上つかたくさしきまえて姫君あつさ行し
と申わくし姫君をさまとのあつき行ま別やうおきさ
めてむちくし姫君をたちふおりしおりてはさこの
おそてちうりまりらし
又世人よみ紀し文からは古筆かかり人いしくりやかお

さらしり見えしけれ
きくの始くらい時の姫君おさえてさしくちさ女ゝさの人
名の歌文字すきうき代見ろ事宣人のみちまはあるく
歌人の題文時くれきらめまけま六めふさね
さまをれし時也行くうし河原の七ろ事路傍事
別に注に花着おくさきさ人ハ小袖をさきこすしてたえ
きすくさゝねを花をとろく今の世ま女房人の肌秘事
一例男女共に小袖を着せて襷を用ゆ一番に
ゆ襷ノ着に始て小袖を用ゆる自其以来皆小袖にゆ
ゆ襷着く紫来る河襷一枯らわろ旧記にみえたる事
葬まいきくさせとをけとてろとよくろみ方のおくてとて
又さうらくいゝりてかんや

さてそこより須磨へくたり給ひて世を捨てゝ月を御覧しくらし給ふ事

世しるへ次第にしるしなきに待まいらせてあり人しも宮仕

蓬生の巻

絵ともあつめさせられしに源氏の君明石上の絵日記

めんかさを紫上に見せて明石の御かたへさそはれて

これ中宮あれは思ひをしのひ給ふ

とのからを源氏の大井へ中宮ありて

松風もさかりしみえし物語おほいなる中宮ありて

しみとあつかふ事にていはひけるもあらし

朝顔も今はえんし姫君をさかりける中宮へ

源氏の中宮ありしをえんしの御事なり

年かたりの源氏卅一歳

おとめと云は冷泉院の礼の事也歳は七なるか

いつき院の入かんさらめのとに給ひ

いかなる御事ともやうやうかはりて

東院のさいの御方と云し花散里の事也西北

ちくさ去つてはこよてし花散里のちゝの

さのをは月をみて源氏の御らんし

ふたたひりとりしも花散里へ源氏の御事也

けんさ殿とりし花ちる里の御かた

かへらのにとくせし花散里の御局にやうかる

まくせよわたりかくらんと申

の巻なり源氏 玉かつら

めりされはミしあやしく海人のへたちの霊なおほえ給へり
ことのゆへありしにやとこそ見えめ此事
若しいふ数盃の許に菓子とさのをおしなへて同事也
別当もし一段のしむるは家司とてあるものなり
女房の地名し円寂大臣家 以下皆有けれ
中納言は深くしけくしまいらせ孫は中くのやとて
さての中納言の御へのはうさき 蔵人方なと播磨と
ことよの播磨の守に縁あるなり 花ちるさと
おもしろき宮の御曹司に浚めけく奔海の深のあさ
まろわりし 出きてんはいとひし
女房は皆ひとし海のゆるさと播磨とうへ給へし

あとかたもなくん播磨の守の詞に来ちふらり揚つくへし
浸るけくをいて海からんやそよもしほそめ
とめなきけん素らんふせ見きてあそとさ孫らしやて
うもさ○こや中納言の君 若上の女房し
舟ろしの若方への方く播磨の君の来あるあり上詞を
うけくよあり遠方人は明石を後語とあまりにすゑへ
の明石かはそれをあさともまくしあとく
いふらしあるく中ねるの君の播し
おそろくし播磨の国にありい六の所あたいかくもあて
海へうんろえしあすこいそやく侍くの御さ○ 早未
さらせくことん是にの宮のはかりくん中くらいにわ 海へ

てはをかんとし 是ふかくとても中々見へし[illegible]様
りと思ふへし 依之
何事とても難義の方へまわり[illegible]ぬ事
それあれきゝん〳〵と難義し
らんハうれしく[illegible]も難義の事とおもとの[illegible]
事とも〳〵御為上の事とおもとの心と難義のかへつてさて
何事も堪忍あるへし 又[illegible]
お[illegible]くてもおもひ女房達とそやおもとハ心難義の[illegible]
上の御機に如何[illegible]へし
[illegible]ハ[illegible]雲の事と[illegible]とも[illegible]
[illegible]の[illegible]御為上[illegible]も[illegible]

[illegible]

夢の[illegible]世の中ハ夢のさとりぬうき[illegible]
[illegible]物とそ思ひ[illegible]ても夢の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

くもるよはこゝろのかきりてらしてもさりとも
のちに来るへき人をかゝりてまつらてとゝまり
おもひてのさとゝむかしも文のかよひこし
世をかくはかりのかなしき御のもとにかへるへき
天をうけて　九二

わかれにもかゝるおもひのなかりせはいかて
のかりなきをも文はかりそ早しらすへき
おもひはてゝ行ところいかにかけてゆかし
おかさりにやまてしかはのかつし
たへまなき涙の京へ人いつしか見えむとおもふ
ふるさとに帰りこしわかれなりけり

あらしもさそふ山のはに月の影かくれぬる
ふるさと
細く結ひて物をおもふやうに涙の中にかはらぬ
ふしにけりいつとか身をうきしつむる
よそにこそおもひしかおもふ人の春上文に
さかしおもひしけきおもかけをもちてなけきのうちに
のちもとけて人のあはれかゝ
さかりにはかなき涙のけむりに路をふみ分のあとゝもに
後の世をそふる今は強くなりけむ
後のおもかけ涙の中にいとゝおもひ出る
さらぬわかれ人は胡をその事に
涙をおもふのゝち流しのそらにたちのほる一
法のため天をわかれ猶もそゝけれ

九二 慶和二年七月廿日
起油亘　良康保二年三月五日
天亘

へたきさらにやしろ付ける雲のはしなく
いへらうおりしそけくしは門に
我しハ名をとし満名状七歳女のはしらし事也
いのちかきりしらす雲のはつあり
ころのらしはめをきらはてあまをくしさ事た給ね
也さんははひとらしく歳あり
まいりて□のともし満雲のゆん加へまいりてはね給をて
中宮給まてもはい老いつちめりを也
らハしさ御しるへ例らもる也花らつのんともあり女性
内也いとよきけきさらし志つ八給給し
ちらすしらてしつたの気はかきさふく加へまいり給

いつかさくくさうろう一うん文を御内侍てったまんと
源氏給りとくしは門に給給とまをとをりく給
給りおもはい給をしは門まをらへらをはれ給まさ
おりくさもく也はは門の女と也給事に中宮の海をきこえ
て中宮よまり文尼まありてはは也まりとくてをはをま
我給ちのより給りてさもくせてこんや
あす給ふとし比源氏の宮の聞の事とあしに后のおくと
そ給を給りも多くていきま事をはかのらてをひ給也
らみ夢のちし源氏の管てい事と内のをう行く女
とたてせさいせかそれ文子の孔来あをてて
夢のらそいおの中へ蒼て給てとせとし给に
右也で尚てくい海也とあてう給へ文也志は
佐給

人も有あれあるをれし病あらん證あるの事に
らしかるありし一のみこれをわがはらしまうし今有るお
わかとさへ力てまうくらは深のゆゑ
かくしぶらを餓えまし本草云損子無毒病者宜食
此をするとさ物をしるへし
院のれゆいらんし是ハ本院のれ遺言しらて深く是政を
志をう孫事を先院の思ひし日々あらはしく思はる事をなめ
めぐまうる　落雲の同
はし人もし深の深くもむすひ深くして人もえぬ行ゐ
人目とおぼしし深しめ深のさめるさしとして
背らはしさえし深しの祠洞の守しりての事

さり矢をきのし如此　今世陰陽
かりらぶら芽出し云所其の事に深みの行く豪家なる心様に
付かりておごる物ならは其いさかしも怒りめ其にありて
分のさびよはまぎやし小く思ひ行したゞ情行く
人のはらはまくつかし我身の事をそおまき人のさうやも世のさめ
ろくさをごうめ給ふ人はしうしらて名をえる事を
背もせられし事あり作法なるの事も人のさめる
らりしき事とめきれさくてましく　射勝也
あまりけうらりし物のえあるふ高さはらさくい
てはれあり物を定てらう物かなとして暁射する事あるさきに
はかなうるうくとおの坐と心あはじ所定し
あるく是らくもさく眠るのまうし家閣なるへし

ゆへしからぬむすひ[illegible]御宿[illegible]の縁[illegible]ありけれは[illegible]
ちかうハ[illegible]
尊氏の事[illegible]峯の梢[illegible]されとも[illegible]のきゝの心[illegible]
をとすれとも[illegible]文[illegible]の[illegible]
八日さすかに[illegible]源氏の[illegible]をすてて此の名を付文[illegible]
の母[illegible]文やまかつら[illegible]
らし[illegible]おの絹[illegible]叶[illegible]
人[illegible]雨[illegible]ハ一念[illegible]の事あれハ[illegible]
[illegible]紀右の筆[illegible]文
二又の[illegible]の母の筆[illegible]古文[illegible]
の[illegible]いふもし[illegible]動[illegible]筆[illegible]
より[illegible]

の筆に[illegible]光備の[illegible]
夫の[illegible]一筆[illegible]通の一[illegible]
梵[illegible]の照[illegible]
[illegible]筆[illegible]
世[illegible]信都の筆[illegible]事[illegible]
法師ハ[illegible]寛筆[illegible]の事[illegible]
おりけりや文[illegible]事[illegible]根
お[illegible]事もあ[illegible]し
おく[illegible]備の[illegible]事[illegible]
さん[illegible]秘密[illegible]事[illegible]の様[illegible]
くハ法[illegible]
日の絹[illegible]院[illegible]の筆[illegible]

よろつの源氏の物語をいつしめさんとおもふこゝろ津
天下の人やすく知やすからんため佛天の名をあらはして
わきてかく巻しるして
秘蔵のはまれ萬代の為のこゝろに定め置て
此文つくりたるしるしにさとりの事也
見るはかりのゆゑにこそ源氏へうつりけれ
おとくにてくし源氏にも物語の事を知へし
仏にたてまつりし 此世のほとけ
文は筆をそへつゝ此筆別の聖あつて知へんか
はかなのひ給ひし
大意といふは天竺の源氏をこそ観とし

あひそめてより紫式部の
菩薩の道にいれり御門の御心に思ひ
同くくるすそして早朝もえさせまいらせ
はかなき事也
おもんはかりて御門の御心を源氏とかんして
其文の筆をそへし源氏とかんしてしるさる
かの別れをうらみ源氏のほうんすること
その母君のくるしみ桃園宮の文源氏のあはれ
ふかくましませ
かくはかりしも世にめつらしき物語は内裏に
さらに我身にかはる紫式部
さかやかなる源氏とはかりの御語

世はをさまりやわらんにしの御徳をうけや
黄帝の御すゑへしれの御徳をうけ給ふかんとまうし
めしそ位をゆづり給ふかんども深くもうら給ひてハ世
をもたもち給ふきとし
いとあつまりし事とし深く民の詞
きこし代ともし堯湯貢洪水大旱之責
ええ世の世ともし延喜とも申し
太てうとも堯湯貢洪水大旱之責南宋成王雒
拱風雷之災雖小異不災人徳 後漢皇后記
義代とも不思議ありし漢九と天下勝計也何ゆへし
此匠のとりうらんし天神の左近とらとし

とくいはさまならとし
かうしつしまするとも源氏の姓は学のかくと極りし綱
此揚ともさとし此門の此のうちとの寸
此らに兄にもまし後のぞ此様んすかに歌深く御ろう運
くらつを在らし漢民へ此の此孔あり源氏の兄とも女給
かくさん人は深民し
いかかくはりくりんし前ともはこの代と世を改めら給ひしとも
ちかりるまきとしこり
はあつしもあつた後の秦始皇ハ莊襄王乃宮子にして
ふか部とももま宮ハ始皇の母太后嫪毐呂不韋
ふ臣下こ宗を連とそ所生
いはれとも湯臣の母ハ三

業平中将かの侍したハ…〔兼〕平伊勢物語(?)
兄〔行平〕ハ…陽成院〔の〕御時中納言…まかり…
さかしく…
…かくて思ふへし

一世の源氏又納言大臣に成し其代に源氏　嵯峨源氏光孝
源氏ハかくの事し源氏になりて後に付たる事あまたを
あり光仁天皇元夫卿　桓武天皇元従五位上大学頭
中務卿　光孝天皇元二品式部卿　年〔中〕〔天〕〔皇〕〔貞〕観
二年賜源氏姓任侍従　仁和三年式部卿　…
親王元慶八年四月十三日賜源氏姓　寛平十一年
三親王元中納言定　三位　一世二世三世ハ源氏也…
…

嵯峨天皇…源…
朝臣の…をさくら…
太政大臣にかはりしこと〻も〻く八束〔御〕給し
御門おほしけるは…世を源へ申…
古院の御心をとおほしけり　古院ハ桐壺也　後ニ桐壺の院とそ申ける
思召しけるに源の御門へ譲り給ふ…
今おほきにいひし源氏か〔紆〕〔錦〕〔也〕〔日〕〔本〕〔関〕〔白〕あり…
かくまし御そ〔み〕ちりの…
源〔くら〕おほし御門〔宮〕〔也〕
〔忘〕しし契りを…御門の御思〔召〕〔し〕〔体〕源氏のおほん…
太政大臣ハいやまし…
おもくの従…[illegible]

牛車しるしのこときこゆる　半蔵門 関東執事
ゆかりの宮くゐは寛弘八年八月廿三日左大臣御覧
頭中将かきまはしこし給ふ御ほうしのみ
中納言ゆるしたまひし源氏のうちにも
権中納言葵上兄太政大臣ゆゑ
源氏はかやうにおもむきて
おもひしらるゝ源氏へは筆にも門へ
ゆかりの門のきさきもかくて文字のわけ
何とも源氏の思ひしらん
命婦かくて命婦の事
藤壺には

若命婦とは
おかしかりしもしるしかなたと源氏へ語りし事也
めのとのもとへこそのひ給ひしとかくのこと
ばかりし事には御門へ源の御事を申さんとしける
うちの御ことあるとも世間のきこえをもはゞかりし
御それを思ふ事を歎給ひし
一とせにかく思ふ事に命婦のかくるときこえ
かく思ひ給ひし
あやしきてこころにおもふとも
さてあはれをもしらぬ人也
やんごとなきおもひなきまことのものまきに
御生みへゆるしなきこの

おほくのきんたちは源氏に[illegible]

其家はかりは源氏の物語の筆法に[illegible]

かくのことく源氏の文の中にある源氏のめし[illegible]

此帝のさくらもみちの色有の周章に上の御心に

浮やかにうつくしき事の御けしきありしもてなしのみ[illegible]

中々もてなしたまふとて源氏の御文に對しての詞に

もんさいなるもいとはしたなき源氏[illegible]は春の花の色[illegible]

ちかくしらぬはしたなき源氏の事に源氏の文を書[illegible]

法のくらやみにまよふものは源氏の[illegible]

於文のさけうなるを[illegible]

かくれはてしやすらひし[illegible]神

[illegible]

八六哥案の[illegible]むかしの御あらん

あさゆふにみなれたまふらんとてかけまくもかしこき口惜し御

なにかし源氏の御詞

ささなみのしかの事ともしあはれをしのひてあはれに[illegible]

こよひはなかのあはれの事の[illegible]をもてしらせて

色[illegible]しとくらしけるを思ひ給へ[illegible]

世をのかれし[illegible]宮と[illegible]の事を深くしのひて[illegible]

源氏の[illegible]

なからへてしもあらしといひし[illegible]のあはれ

一所の御すまひのはかなくも[illegible]

[illegible]

八雲抄に

なと一云々の歌は八一様に事也思へと

法なるは一葉の中の事也 体は息所を持

ち思ひ行人事をも清書なる

まことの男の心なれは 此こしるへの事と

こゝへの院より花ちる里の事とあるは

おもしろき事とし花ちる里の心をさゝん

のちにかきあらはすおもての心を思ふの事とは

花ちる里の中のみなさせる

さらに色をおほえけの一ふしのゆかしさ

思ふへし

則まし いくらんと をくり

ありつるかいつらし 此門くつの

みかとの御おほえの后の姫宮の事を法文

きしる御かけさせし 于公高門事 但この

いはれ 漢民の一門も無罪せんとし 細に

于公 東海人也 子于定国字ハ曼青 家の門の破るに

父子のたしはくるひまり于公といふ 門を高大にせ

高蓋入へし立て我獄の司として陰徳多

ゆへ我子孫は必家をおこすへし

定国大臣となり子の永 御史大夫となる

様 今日 此東海国の

云々 石の

竹林ハ風葉もし [illegible]

[illegible]

一林作十里錦障 [illegible] 花の [illegible]

逢春不遊楽 但恐是痴人

[illegible]

劉禹錫 自古逢秋悲寂寥 我言秋日勝春朝

秋の気色 [illegible]

[illegible] 文正家ニ [illegible] 林 [illegible]

[illegible]

されハ諸卿[illegible]

もろこしにて[illegible]新院の事を

源氏の四位[illegible]行なし

かくてひかる源氏の御[illegible]

中宮[illegible]事をあはれ[illegible]

にほひてけふも[illegible]

[illegible]行幸[illegible]

[illegible]

[illegible]新院の[illegible]源氏のおもて[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]源氏の[illegible]自[illegible]

[illegible]花[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]源氏の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]源氏ハ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

こよひは秋なれは [illegible]　きく [illegible]　二月尽

いふ前もおり [illegible] ねをかのれしの [illegible] しきこくおきくもす

八朧月夜の方の [illegible] しはわれしあり文柳くし [illegible]

あり

さいきくらし源氏のいて父あり上東門院の母のたいし

それいて [illegible] けなれし源氏のゆかしと枕ねを思はす事も詞に [illegible]

よかくひは源事を思ひて [illegible] 後に [illegible] いて [illegible] 事

ともに [illegible] 門の中に [illegible] く [illegible] しませ心あて [illegible]

うけ [illegible] さかくは源氏の事は [illegible] つまき事これ

ともそのいふ [illegible] の年 [illegible] く [illegible]

中きさ [illegible] かく [illegible] もあつて [illegible] [illegible] し [illegible]

八 [illegible] の [illegible] し [illegible]

[illegible]

[illegible] 一 [illegible] [illegible] の [illegible] [illegible]

[illegible] 花 [illegible]

[illegible] 枕の [illegible] 枕 [illegible] [illegible]

[illegible] し [illegible] 枕 [illegible] 源氏の [illegible]

[illegible] 親 [illegible]

[illegible] の [illegible] [illegible] 事 [illegible]

[illegible] [illegible] 絶 [illegible]

[illegible] 不祥 [illegible]

[illegible] の事

[illegible]

[illegible]

はかなくてかはらぬ[illegible]おもひらんとて
[illegible]もおほえ[illegible]
おそろしとおもひぬる物ともかしこの御事[illegible]の事し
[illegible]かなしきかなしと源氏の大方と思ひとりし
[illegible]はあはれなるひめくさとこそ
おほえさして[illegible]物くるしき物との[illegible]さる
[illegible]おなしく源氏のうへ[illegible]
又おはしましてきこゆるに[illegible]
この[illegible]源氏の君の[illegible]
[illegible]物ものまうてもかくるも[illegible]
の源氏[illegible]
いふ[illegible]

[illegible]
いさよひの月をまちて[illegible]八月に
[illegible]かゝるやう[illegible]
いさゝかなる[illegible]かくの[illegible]
[illegible]
おもひ[illegible]
[illegible]
源氏の[illegible]
[illegible]
[illegible]世中[illegible]
[illegible]
[illegible]

こゝろはいとく　さも

には奉納すしも此ゆへを得てあのんと　一義

みゆるところしさうのゝ中堂にて御会行し給ふとて拝む

れい花并つゝきけくとこそうつ給え

思ひかけしあへし清〇しうし深しの人やしうの経

ありふく御名との都ひもおまはしかうく

浮雲口義終

111X
3
30